

サントリーホール開場記念

サントリー音楽賞受賞演奏家シリーズ I

芥川也寸志と新交響楽団

1987年2月1日(日) 14:00開演 サントリーホール(大)

入場料(全指定) A¥2,000/B¥1,500/C¥1,000



曲目

● 平尾貴四男

古代讃歌(1935)

● 早坂文雄

左方の舞と右方の舞(1942)

● 小倉 朗

オーケストラのための舞踊組曲(1953)

● 伊福部昭

タップカーラ交響曲(1955/1979改訂)

指揮—芥川也寸志

管弦楽—新交響楽団



主催 サントリー音楽財団

協賛 サントリー株式会社

制作協力 東京コンサーツ

お問合せ・電話予約 東京コンサーツ 03(359)9755

前売所 チケットぴあ 03(237)9990/チケットセゾン 03(980)6060

プレイガイド企画 03(432)9711/丸井チケットガイド 03(363)0101

サントリーホール・チケットセンター 03(505)1010

その他都内各プレイガイド

芥川也寸志と 新交響樂團

昭和51年度

第8回

鳥井音楽賞(現サントリー音楽賞)受賞

受賞理由

1976年9月3日と10月11日の2日間にわたり、東京文化会館大ホールで行なわれた芥川也寸志指揮による「新交響樂團」の〈日本の交響作品展〉(昭和8年～18年)と名づけた演奏会は、殆ど名声のみで実質的には埋もれていた同時期における代表的な日本のオーケストラ作品を発掘・再現した企画と、個々の作品の特質を的確に把握したきわめてすぐれた演奏内容により、1976年内におけるもっとも傑出した音楽会であり、わが国の創作・演奏両面にわたり、少なからぬ示唆と刺激をもたらし、音楽全般に寄与・貢献するところが絶大であった。

新交響樂團は1956年3月芥川也寸志氏が、アマチュア音楽家を集め設立、彼の企画・指導により1957年11月21日の第1回定期演奏会以来、たゆまぬ日常的な合奏訓練と演奏活動を持続し、1976年秋までの20年間に23回の定期を中心とする74回の演奏会を行なってきた。そして創立20周年記念として実現した〈日本の交響作品展〉(昭和8年～18年)は2夜にわたり、それぞれ5名ずつの作曲家によるこの時期の代表作10曲を編成し、文献・記録などによって注目されながら、さまざまな障害から演奏不可能とされてきたこれらの作品をきわめて入念・忠実に再現することで、過去の作曲家たちによる業績を明らかにし、聴衆に多大な感銘をもたらすとともに、日本人の手になるオーケストラ音楽に改めて再評価の機会を与え、その作曲法・創作態度を通じて専門家にも少なからぬ影響をもたらすところとなった。とりわけ日本のオーケストラ界全体における日本人作品の企画・演奏の機会がとばしい現状において彼らの演奏会は新風を注ぎこむものとしてきわめて大きな意義をそなえている。

芥川也寸志経歴

1925年龍之介三男として生まれる。1943年東京高等師範付属中学校を経て、東京音楽学校予科作曲部に入學。和声を下総院一、対位法を細川碧、作曲法を橋本國彦、ピアノを永井進に学ぶ。終戦後、東京音楽学校の講師として来任した伊福部昭の管弦楽法の講義を聞いて感動。以来、伊福部氏の影響を受ける。1949年東京音楽学校研究科修了。1950年「交響管弦楽のための音

楽」に対し、NHK 創立25周年記念管弦楽曲懸賞特賞が贈られる。1953年「弦楽のための3楽章——トリプティック」がワルシヤ音楽祭作曲賞を受賞。この年、團伊玖磨、黛敏郎と共に《3人の会》を結成、翌54年1月第1回音楽会を開く。1956年アマチュア・オーケストラ「新交響樂團」を創設。1967年「ヒロシマのオルフェ」が、ザルツブルグ・オペラ・コンクール第1位を獲得。他に、多数の映画音楽に対し、毎日映画賞、ブルー・リボン音楽賞、日本アカデミー賞が贈られている。現在、新交響樂團の音楽監督、常任指揮者としても活躍。日本作曲家協議会会長、日本音楽著作権協会(JASRAC)理事長。『私の音楽談義』『音楽の遊園地』等著書も多い。

新交響樂團経歴

新交響樂團(略称「新響」)は、1956年3月に創立されて以来30年にわたって団員により自主的に運営されている我国最大のアマチュア・オーケストラ。120名の団員の職業は、会社員55%、教職員15%、自営業・医師・公務員・学生各々5%、主婦10%と多岐にわたっている。創立以来、音楽監督・芥川也寸志の指導のもと、自主演奏会のほか、国内・国外の演奏旅行など幅広い活動を行なってきた。演奏曲目も、1966年の創立10周年にはベートーヴェンの交響曲の全曲演奏、1970年にはストラヴィンスキーの3部作の一举上演など、少しずつ増やしてきている。1976年創立20周年記念演奏会〈日本の交響作品展〉(昭和8年～18年)を行なう。以来この日本作品シリーズは毎年1回ずつ継続されている。また、1979年の第86回演奏会以来、名誉指揮者山田一雄の指導により、G. マラーの交響曲に取り組み、これまでに7回マラーの演奏会を行なっている。新響は年4回の自主演奏会のほか、公共団体、学校などの依頼演奏会も行なっている。自主演奏会には公共機関や民間団体からの継続的な財政援助は一切なく、団員自身の負担と聴衆の中から組織された維持会制度によって運営されている。そうした手作りの音楽演奏を通じて新響はアマチュア・オーケストラとしての可能性を最大限に追及している。

サントリーホール開場記念 サントリー音楽賞受賞演奏家シリーズ

I 芥川也寸志と新交響樂團

1987年2月1日(日) 14:00 サントリーホール(大) 全指定 A ¥2,000/B ¥1,500/C ¥1,000

II 小林道夫チェンバロ演奏会

1987年2月2日(月) 19:00 サントリーホール(小) 全自由 ¥3,000

III 吉原すみれパーカッション演奏会

1987年2月3日(火) 19:00 サントリーホール(小) 全自由 ¥3,000

IV 外山雄三と名古屋フィルハーモニー交響樂團

1987年2月4日(水) 19:00 サントリーホール(大) 全指定 A ¥3,500/B ¥3,000/C ¥2,500/D ¥1,500

V 栗林義信、常森寿子、豊田喜代美によるイタリアオペラコンサート

指揮 佐藤功太郎 管弦楽 新星日本交響樂團

1987年2月5日(木) 19:00 サントリーホール(大) 全指定 A ¥3,500/B ¥3,000/C ¥2,500/D ¥1,500